

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

香川県三豊市

2022年9月

SDGs未来都市計画名

香川県三豊市 SDGs 未来都市計画

特に注力する先導的取組

せとうちスマートアイランド構想～多極分散ネットワーク型における「海と島のみとよ」

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

香川県三豊市 SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

多極分散ネットワーク型まちづくりによるひろく豊かな田園都市を実現する。

A I や I o T を積極的に活用した三豊独自のスタイルを確立し、様々なまちの課題解決や産業の育成等に取り組む。

また、産業創造拠点や次世代育成拠点、地域コミュニティ拠点といったプロジェクト拠点を整備し、多極で目的を分担するとともに、まちに具体的なゾーニングを施し、合理的かつ効果的なまちづくりを進めていく。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 13 気候変動に具体的な対策を

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	観光入込客数【8.2、8.3】	2018年度 1,695 千人	2021年度 1,272 千人	2024年度 2,000 千人	-139%
2	農地所有的確法人数【9.4】	2017年度 26 法人	2021年度 27 法人	2023年度 30 法人	25%
3	特定健康診査受診率【3.8】	2018年度 45.1 %	2021年度 40.2 %	2024年度 60.0 %	-33%
4	まちづくり推進隊自主事業における役務提供者数【11.3】	2018年度 9,719 人	2021年度 4,549 人	2024年度 21,000 人	-46%
5	移住・定住支援制度利用の移住世帯数【17.17】	2018年度 67 世帯	2021年度 91 世帯	2024年度 80 世帯	185%
6	市域の温室効果ガス排出量【13.2】	2017年度 1,045,952 t-CO2	2021年度 - t-CO2	2030年度 879,243 t-CO2	-

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

農地所有的確法人数、移住・定住支援制度利用の移住世帯数の2点において、目標値を達成できた。引き続き、達成できるように努める。

観光入込客数、まちづくり推進隊自主事業における役務提供者数については、コロナ禍の行動制限やイベント自粛が影響したものと考えられる。今後の動向によって、目標値に近づくことは可能であり、人を呼び込む施策を続けていく。

また、特定健康診査受診率はコロナ禍の影響で集団検診ができなかった前年に比べ、医療機関での受診を促進した結果、回復傾向が見られる。引き続き、目標値達成に向けて、健康増進への意識醸成を図るための積極的な呼びかけを実施する。

なお、市域の温室効果ガス排出量については、数値の一部が公表されていないため現状値が算出できない状況である。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年 実績	2021年 実績	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 (%)
1	観光収益の向上と地域法人化の促進・観光関連企業の誘致	宿泊客数	2018年 18千人	2020年 15千人	2021年 19千人		2024年 40千人	5%
2	新技術開発・商品企画の協働法人の増加	先端設備等導入企画認定における設備投資額	2017年度 0億円	2020年度 8.7億円	2021年度 17.2億円		2023年度 19億円	91%
3	人流強化のための企業CSR活動の活性化・企業のまちづくり参画誘導	敷地面積5ha以上を有する立地企業数	2018年度 7件	2020年度 8件	2021年度 9件		2024年度 9件	100%
4	AI・ICT活用による多極分散ネットワーク型まちづくりの強化	新しい公共交通手段（コミュニティバス、汽船、JR、タクシー以外）	2017年度 0事業	2020年度 1事業	2021年度 2事業		2024年度 3事業	67%
5	移住・定住の促進と支援	移住・定住支援制度の利用移住世帯数	2017年度 67世帯	2020年度 62世帯	2021年度 91世帯		2024年度 80世帯	185%
6	移住・定住の促進と支援	空き家バンク登録件数	2017年度 76件	2020年度 63件	2021年度 59件		2023年度 80件	74%
7	環境都市みとよ＝最新鋭ごみ処理施設	リサイクル率	2018年度 63.9%	2020年度 65.3%	2021年度 65.6%		2024年度 64.6%	246%
8	有害鳥獣の駆除	有害鳥獣捕獲数（イノシシ）	2018年度 1,503頭	2020年度 1,954頭	2021年度 2,156頭		2024年度 1,500頭	44%
9	タラ財団の海洋環境調査への支援	リサイクル率	2018年度 63.9%	2020年度 65.3%	2021年度 65.6%		2024年度 64.6%	246%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

賛助企業・協力企業による実証実験の段階から、一部、実装に進んだ事業も出てきた。今後は地元金融機関との連携も強化していく。
また、2021年2月から開始した「みとよSDGs推進パートナー」の登録制度においては、2022年8月末現在で124の企業・団体の登録がある。パートナーの活動を広く周知することで、SDGsの輪を広げるだけでなく、市とパートナー及びパートナー同士の連携によるネットワークの構築に取り組んでいる。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

観光分野においては、依然コロナ禍の影響を受け、宿泊客数が伸びていない。

移住促進の空き家バンク登録件数については、地元不動産業者の協力のもとで進めており、年によって、60件前後を推移している。空き家所有者への効果的な周知を図る。

その他の項目については、すでに目標値を達成しているものや順調に成果を出しているものがあるので、引き続き、2024年度に向けて取り組んでいきたい。

提案時のモデル事業の推進状況について

・観光交流にぎわい創造拠点の整備

プレミアム付観光デジタル商品券を販売するなど、コロナ禍で影響を受けた地域内需要の回復に努めた。

・スマートアイランド構想の視点により離島の課題を解決

(4) 有識者からの取組に対する評価

・移住世帯数が着実に増加しており評価できる。

・コロナ禍の打撃は大きいと推察するが、それを乗り越えるだけの工夫を考える契機にもなったのではないかと思料する。その点をもう少し検討いただくことを期待する。